厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
科学的根拠に基づくがん情報の提供及び均てん化に向けた体制整備に資する研究
（分担研究報告書）

がんの診断時に適切に患者等に情報提供する方策の検討

研究分担者　　高山　智子　　静岡社会健康医学大学院大学　　教授
国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部　客員研究員

要旨
がん診療連携拠点病院では、令和4年8月に出された「がん診療連携拠点病院の整備について」（以下、整備指針）に示された、がん相談支援センターの周知について、特に「外来初診時から治療開始までを目処に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センター（以下、相談支援センター）を訪問することができる体制を整備することがのぞましい」ことが明記されて以降、どのように体制整備を行うかが課題となっている。そこで、本年度は、昨年度に引き続き“外来初診時からの相談支援センターの訪問”についての好事例紹介を含む講演会を開催し、取り組み内容の情報共有をはかるとともに、相談支援センターの運営上の困りごとを収集し、対応策を検討することを目的とした。
2025年12月9日（火）に「がん相談支援センター向けオンライン講演会」を厚労科研高山班（23EA1025）と共同開催し、参加者に「相談支援センターの運営に関する困りごと」を自由記載で求め、その内容を分析・検討した。
オンライン講演会の申込者は144名で、総合病院からの参加者が6割であった。事前アンケートでは、相談支援センターの周知に関する内容の困りごとが最も多く、事後アンケートの講演内容別の参考の程度についても相談支援センターの周知に関する内容について参考となったとする回答が多く、さらに運営方法について具体的に知りたいという意見も多かった。
相談支援センターの周知には、相談支援を取り巻く環境を運営者側の立場として施設内で整理し、体制づくり行うかという視点も不可欠である。好事例を含む具体的な取組みを互いに共有し合える環境を継続的に設けるとともに、好事例を病院全体で取り組めるような機会をつくることもまた重要であると考えられた。

A. 研究目的

がん診療連携拠点病院（以下、がん拠点病院）では、令和4年8月に出された「がん診療連携拠点病院の整備について」（以下、整備指針）において、がん相談支援センターの周知について、特に「外来初診時から治療開始までを目処に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センター（以下、相談支援センター）を訪問（必ずしも具体的な相談を伴わない、場所等の確認も含む）することができる体制を整備することがのぞましい」ことが明記されて以降、どのように院内での体制整備を行うか、課題としてあげられている。そこで、本年度は、昨年の2024年度に引き続き、“外来初診時からの相談支援センターの訪問”について取り組み、実際に相談者数の増加につながっている事例紹介を含む講演会を開催することで、取り組みの情報共有をはかること、また、現在の相談支援センターの運営上の困りごとを収集し、対応策を検討することを目的とした。

B. 研究方法

2025年12月9日（火）15:30-17:00に「がん相談支援センター向けオンライン講演会」を厚労科研高山班（23EA1025）と共に開催した（参考資料1）。講演会申込時に、参加者の相談支援センターでの立場と「相談支援センターの運営に関する困りごと」を自由記載で求め、相談支援センターの周知に関する内容について、どのような状況で困難を来しているかについて分析・検討を行った。また事後アンケートとして、講演内容が参考になったか、さらに相談支援センターの運営に関して知りたかったことを聞き、相談支援の関係者らのニーズを明らかにすることとした。

（倫理面への配慮）
講演会時に収集した自由回答等の内容については、個人情報を除いて講演会及び報告書等に活用させていただく旨をあらかじめ周知し承諾を得た上で実施した。また本内容は、施設の体制や状況に関するものであるため、個人情報保護上は特に問題は発生しないと考える。

C. 研究結果

「がん相談支援センター向けオンライン講演会」の申込者は144名で、施設背景では総合病院からの参加者が6割であった（表1, 2）。事前アンケートの自由記載で困りごとについて記載した19名の内容全23件のうち、相談支援センターの周知に関する内容は、8件で最も多かった（表3）。

講演会後の事後アンケートの結果（図1）では、1名（0.8%）を除き参考になったと回答していた。講

演内容別の参考の程度（図2）については、講演4の相談支援センターの周知に関する取組（77.5%）、講演3の大学病院の周知の取組（76.0%）、講演1の相談員の知識･スキルの可視化（65.9%）の順で高かった。また相談支援センターの運営に関してさらに知りたかったこととして、周知の取組や効果・実績、人員配置や組織づくりに関すること等についてさらに具体的に知りたいという意見があげられた（表4）。

D. 考察

相談支援センターの運営上の困りごととしてあげられていた内容は、周知に関するものが最も多かった。これは昨年度の講演会の際のアンケート結果と同様であり、相談支援センターが継続的に抱えている課題であることが、今回のアンケート結果からも浮き彫りになった。さらに具体的な取り組み内容を知りたいという声も多く、相談支援センターの関係者らが関心を持って取り組んでいることがうかがえる。がん拠点病院の規模や特徴による違いだけでなく、病院内の組織や状況は、時代とともに刻々と変化している。したがって、好事例を含む具体的な取組みを互いに共有し合える環境が継続的にあることで、相談支援センターの周知の取り組みをその時の状況に合わせて組み入れやすい環境ができるのではないかと考えられる。

また今回の講演会では、運営者側として相談支援を取り巻く環境を施設内でどのように整理し、体制づくりを促すかということも相談支援センターの周知を行うには不可欠であると考え、講演内容の一つとした。運営者側の立場の参加者は少なかったものの、好事例を参考に病院全体でどのように取り組むことができるかを検討できる場をつくっていくためには、病院の幹部等の管理者が好事例を病院内に取り組むことも重要である。今回の講演会の内容は、講演会記録集として整理し、全国の相談支援センターに配布を行った（参考資料2）。記録集による媒体により、病院幹部を含めた施設内での情報共有の機会になることを期待したい。

E. 結論

本検討では、オンライン講演会の参加者の困りごとを分析し、今後の方策のヒントを得ることを目的とした。相談支援センターの周知の取り組みに関する関心は非常に高く、さらに具体的な方策についても関心が高いことが示された。

また相談支援センターの周知には、相談支援を取り巻く環境を運営者側の立場として施設内で整理し、体制づくり行うかという視点も不可欠である。好事例を参考に病院全体でどのように取り組むことができるかを共有し、具体的な取り組みにつなげられるようにしていくことが重要である。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

１．論文発表

なし

２．学会発表

なし

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

１．特許取得

２．実用新案登録

３．その他

なし

「がん相談支援センター向けオンライン講演会」（2025 年 12 月 9 日（火）15:30-17:00）の事前・事後アンケート結果

表 1. 参加者の背景（職種等）

参加者	人数	%
相談員	122	84.7
事務職員	10	6.9
管理者	6	4.2
その他	6	4.2
合計	144	100.0

表 2. 参加施設内訳

	n	%
がん専門病院	8	6.2
総合病院	78	60.5
大学病院	29	22.5
その他	14	10.9

表 3. 事前アンケート（参加登録時の質問したいこと・困りごと）

内容分類	件数
周知について	8
組織・相談体制・人員不足	4
件数・加算	2
診断時からの相談	1
相談員育成	4
相談者フィードバック	2
ピアサポーター	1

※19 名から 23 件の内容を分類

図1. 事後アンケート結果：講演会は参考になったか

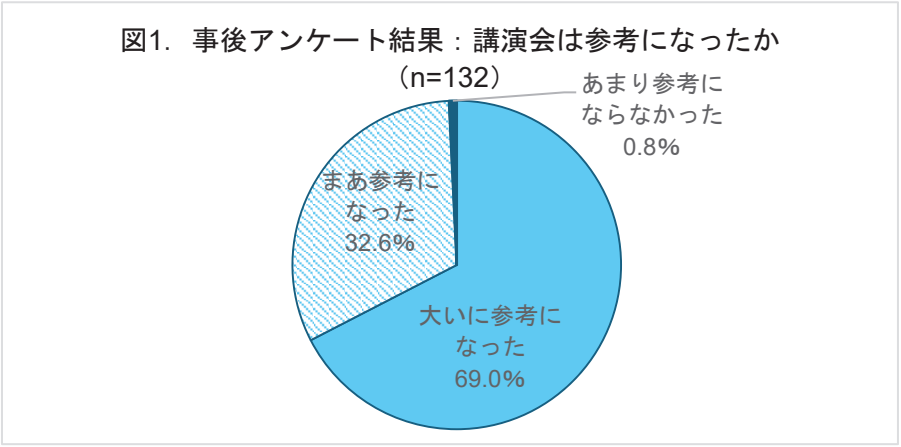


図2. 事後アンケート結果：活動や業務に参考になった講演

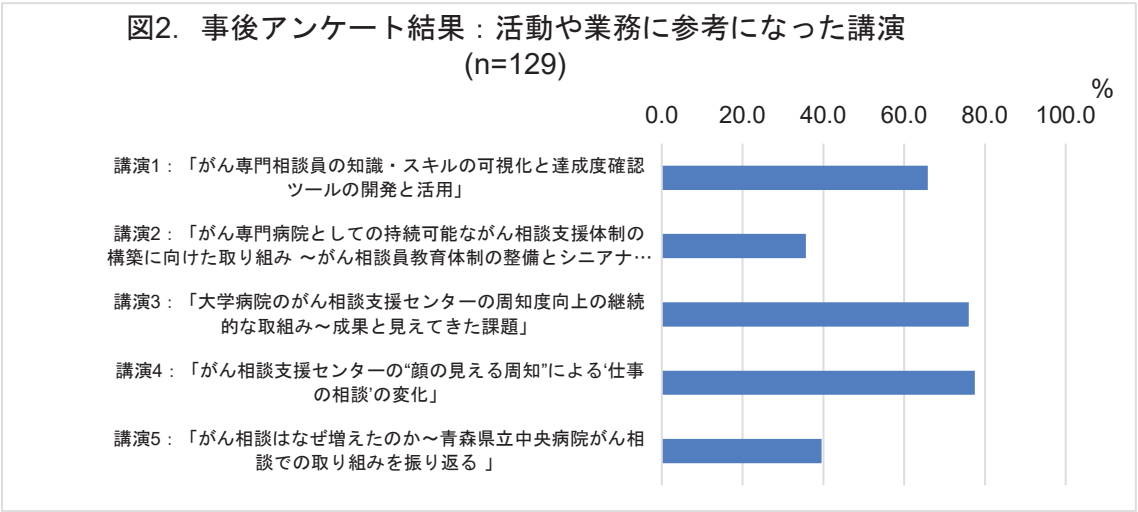


表 4. 事後アンケート結果：がん相談支援センターの運営に関してさらに知りたかったこと（主な意見）

周知の取り組み	周知について担当者カードを渡し、直接案内をするのは、とても相談者の相談の一歩につながり素晴らしい取り組みだと思った。当院は、デフォルトで相談支援に立ち寄る仕組みがある。マンパワーから、担当者として相談員が赴くにはステップがある。専従数は同じように思うが、どうすればできるのかもっと知りたかった。
	がん相談支援センターの周知への取り組みについて他施設での様子をさらにたくさん聞いてみたい。
	すべての患者に医療相談あることを知らせるところを具体的に知りたい。当院も総合病院ですので大変さがわかる。
	病院を挙げて、がん相談支援センターの周知に向けて取り組みに協力していただいていると思う。病院内の協力を得られた方法等あれば教えていただきたい（運営に関するものではないと思いますが）。
周知による効果・実績	積極的にがん相談支援センターの案内をされたことによって、実績として１日あたり、何人の方が新規に相談支援センターに来られたのか。また、何人の相談員で対応されたのか知りたい。
連携	がん相談以外の相談窓口や専門相談員との連携協働例について知りたい。
	院内のがん相談支援センターと他部署の連携について好事例を知りたい。
相談者からのフィードバック	利用者からのフィードバックをどのように受けるか。当院では現在相談前・後、がん相談支援センター窓口近くへの配架等でご意見いただけるよう取り組んでいる。しかし、相談後のお渡しは、相談内容や利用者の様子で渡すことに困難感を感じ、回答いただける利用者にバイアスがかかっていると感じる。マイナスのフィードバックが少ない現状。本来の目的である、相談支援の質の担保につながっていないと思い、どのようにしていったらよいか、県の相談支援部会でも課題になっている。先行事例等伝えていただけると嬉しい。
	フィードバックについてアンケート回答とのことでしたが、紙面なのかQRコードだけなのか両方の方が効果的なのかというのを知りたい。
相談員の教育・教育体制	がん相談のビギナー研修
	がん相談員の教育体制について後継者問題が課題なのでその点を聞きたかった
ピアサポーター育成	ピアサポーターの育成について
日本癌治療学会・ナビゲーターとの連携	シニアナビゲーターとの連携について先駆的に取り組まれている好事例があれば知りたい。
	ナビゲーター実地見学について広報等取り組みがあれば教えてほしかった
パンフレット分類・展示	がん相談支援における情報提供に活用するパンフレット分類について。どのように分類してるか、展示しているか。
人員配置・体制・組織づくり	当院のがん相談支援センターは院内からの異動ではなく契約職員としての雇用は基本的に５年で雇止めになる。中間管理職も不在であり同様の施設がありましたらスタッフの教育やモチベーションの維持などどのようにしているのかお尋ねしたい。
	部署内の看護師とMSWの数について、がん相談支援センターは兼任も多いと思うので、実際その医療機関において相談業務（前方、後方支援、福祉相談、がん相談含め）実数で何人いるかを今後のこういった講演の際には教えていただきたい。
	相談部門の改編などよい組織づくりの具体的方法
	相談員の増員が望めるようなアプローチの方法

参考資料 1. オンライン講演会案内

厚労科研主催：がん相談支援センター向け　オンライン講演会

がん相談支援センターの周知と持続可能な体制づくりに向けて
「多様ながん相談への対応：相談員の育成と周知成功の鍵」

本オンライン講演会の開催趣旨：

がん相談支援センターを、『いかに、診断後間もない患者さんやご家族に知ってもらい、利用してもらうか』、がん相談支援センターの長年の課題です。「がん診療連携拠点病院等の整備について（以下、整備指針）（令和4年8月）」に書かれたように、相談員だけの努力だけでは難しく、**病院を挙げて、体制として"相談"を受けられるようにすること**が大切です。

本厚労科研研究班では、昨年に引き続き、この長年の課題に取り組む中で見えてきた課題や運営上の工夫について紹介するオンライン講演会を開催いたします。**診断後早期から、がん相談支援センターの利用につなげる**取り組み、**継続的な院内周知に取り組む中で見えてきた課題**、また**施設の管理者の立場からのお話・工夫についてもお話頂く予定です。**

さらに、**"多様ながん相談"に対応できるがん専門相談員の育成**をどう行ったらいいのかといった課題に対して、相談員の知識やスキルの可視化を図る取り組みや教育の取り組み等についても紹介させていただきます。がん相談支援センターの皆さま、ぜひ管理者の方もお誘いいただき、ふるってご参加ください。

※本講演会は、オンデマンドでも一定期間閲覧できるようにする予定です。オンデマンドでのお申込みもこちらからお願いします。

【"多様ながん相談"に対応できるがん専門相談員の育成の取り組み】

「がん専門相談員の知識・スキルの可視化と達成度確認ツールの開発と活用」
北里大学病院　師長：近藤まゆみ

「がん専門病院としての持続可能ながん相談支援体制の構築に向けた取り組み
～がん相談員教育体制の整備とシニアナビゲーター実地見学の効率化」
九州がんセンター　院長：森田　勝、　同がん相談支援センター　相談員：北川善子

【がん相談支援センターの周知：見えてきた課題と周知成功の鍵】

「大学病院のがん相談支援センターの周知度向上の継続的な取組み
～成果と見えてきた課題」
日本大学医学部附属板橋病院　がん相談支援センター長／医師：櫻井裕幸、相談員：吉田優子、野村浩明

「がん相談支援センターの"顔の見える周知"による'仕事の相談'の変化」
青森県立中央病院　がん相談支援センター　相談員：坂本周子

「がん相談はなぜ増えたのか～青森県立中央病院がん相談での取り組みを振り返る」
東京西徳洲会病院　顧問／前青森県立中央病院　副院長：的場元弘

参加方法

日時：2025年12月9日（火）15:30-17:00
場所：オンライン（期間限定オンデマンドあり）　参加：無料
参加登録方法：下記参加登録フォームURL　又は、右の二次元バーコードより、お申込みください。
https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_4TmgBF6hQ2yaFnmj1YLQ9g
参加登録された方に当日のウェビナーURLのご案内をお送りします。

参加申込みは
こちらから➔

要申込

■申込みに関するお問い合わせ：がん相談支援センター向け　オンライン講演会 参加受付窓口
受付時間：9-18時（土日祝日除く）　株式会社静岡ＡＶセンター
電話番号：054-282-1678　E-mail：kumiko-k@s-avc.comセンター担当：黒崎久美子）
■講演内容に関するお問い合わせ：厚労科研高山班講演会事務局：jimu_S-SPH_HCR@umin.ac.jp

主催：R7年度厚生労働科学研究費補助金「がん相談支援の質の確保及び持続可能な体制の構築に資する研究(23EA1025)研究代表者：高山智子」「科学的根拠に基づくがん情報の提供及び均てん化に向けた体制整備に資する研究（23EA1026)研究代表者：若尾文彦」

参考資料 2. オンライン講演会記録集（全 76 頁）

